「どうくつでみつけた ふしぎな え」

● ことの発端は・・・

図工室の流しの下に、何年前からあったのかわからない紙粘土が、梱包された段ボール箱に入れられたまま、いくつかありました。開いてみると、粘土はすでにカチカチ。廃棄するにも重たいし・・・何とか利用できないものか・・・？

試しに、バケツに水を入れ、いくつかの塊を沈めて様子を見ました。次の日、覗いてみてビックリ。あのカチカチ粘土が、トロントロンの粘土に変身していたのです。これを紙粘土として使える状態に戻すことは、まず不可能です。この状態で利用するすべは・・・。

●もう一つの廃材利用・・・

給食関係の容器などが古くなると廃棄されます。「おぼん」「おさら」 いくつかいただくことにしました。これが、低学年の図工の授業でどれほど役立ったことか。教材紹介の中に、何度も出てくるはずです。

●授業の流れ・・・

＊「みんなにいいものをあげるから、おさらを持って並んでください。」
（おたまで、あのトロトロ紙粘土を入れてあげました。」

＊「さて、これから味付けに入ります。」
（校庭に行って砂を一つかみ）（教室に戻って木工ボンドをひと匙）（共同制作用の粉えのぐの好きな色を加えてよくねって）　・スプーンでかきまぜたり、手でかきまぜたり大喜び

＊「この紙の上におさらの中のものを全部のせて、たいらにのばしてみましょう。」（黄ボール紙を使いましたが、乾燥すると少しそってしまいます。上学年が使った版画の板などをもらって使用するのもいいですね）

●一週間たちました。ドロドロ粘土はすっかり固くなっています。

＊「石みたいになってる・・・。」

＊「この石のかたまりをさがしに、１組みんなで、どうくつ探検に行くよ。」
「暗い どうくつの中で、懐中電灯の光の中に見えてきたのは・・・」
「だれが、いつ、何をかいたかわからない絵が、浮かびあがってきたのです。」

●一人一人が思い浮かべた絵をかいてみました。

おぼん の上に 共同製作用の絵の具をチューブから出して、絵筆で直接かいました。（白ボール紙で枠をつけて展示）

※ この画面を終了し 元のページに戻すには パソコン画面 左上の ← をクリックします。